

令和6年第4回西海市議会定例会

市政一般に対する質問一覧

月 日	通告順	登壇順	氏 名	頁
12月3日 (火)	1	1	百 岳 一 彦 議員	2
	2	2	瀧 瀬 栄 子 議員	3
	3	3	平 井 満 洋 議員	5
	4	4	打 田 清 議員	6
12月4日 (水)	5	1	西 川 勝 則 議員	8
	6	2	片 山 智 弘 議員	9
	7	3	田 川 正 毅 議員	11
	8	4	平 野 直 幸 議員	12

西 海 市 議 会

1. 百岳 一彦 議員

質問事項 1

大島若人の森総合運動公園の利用状況及び今後の運営方針について

質問の要旨

- (1) 大島若人の森総合運動公園の利用状況について、宿泊研修施設を含め、利用者数や利用頻度など施設の利用状況について伺う。
- (2) 現在の利用状況を踏まえて、老朽化した宿泊研修施設の改修など、利用促進のための今後の運営方針について、具体的な対策や改善策があるのか考えを伺う。

質問事項 2

市内各地域にある公園の遊具の設置状況について

質問の要旨

市内各地域にある公園の遊具の設置状況について、遊具の設置が少ないと感じているが、この現状に対する市の対応方針や整備計画があるのか伺う。

質問事項 3

大島西面体育館の利活用計画について

質問の要旨

用途廃止に伴い、現在使用できない大島西面体育館について、今後の利活用計画について伺う。

質問事項 4

大島百合岳公園の眺望改善及び観光資源活用について

質問の要旨

- (1) 百合岳公園周辺の木々が成長し、かつて芝生公園からは眼下に大島の様々な施設や民家の町並みがまるで箱庭のように一望でき、さらに五島列島、平戸島、大島大橋等の大パノラマが楽しめていたが、現在は眺望が悪化している。このため、芝生公園から間瀬、真砂及び馬込方面を見渡す眺望改善を図るべく、公園区域内外の公有地に加え、私有地についても許可を得て、眺望の支障となる木々の伐採ができないか伺う。
- (2) ながさきサンセットロード沿線の自治体として、西の海に沈む夕日や夏の漁火をゆっくりと腰を下ろして楽しめる場所を整備するなど、観光資源として活用する考えはないのか伺う。

- (3) 百合岳公園にある世界的に有名な造形作家、風の彫刻家で知られる新宮晋氏の作品「星のなる木」や大島大橋公園の「風の花びら」を観光資源に活用できないのか伺う。

2. 洲瀬 栄子 議員

質問事項 1

带状疱疹ワクチン接種費用の助成について

質問の要旨

带状疱疹ワクチン接種は現在、任意接種であり、医療機関により接種費用は異なるが生ワクチンは1回接種で約1万円、不活化ワクチンは2回接種で約4万円の費用がかかる。このような状況の中、50歳以上の人に対して接種費用の一部を助成する自治体が増加している。

このような背景を踏まえ、市民からは带状疱疹ワクチン接種費用の助成を求める声が寄せられていることから、本市として、どのような対応を考えているのか伺う。

質問事項 2

買い物弱者対策事業について

質問の要旨

- (1) 本市は、身近な商店の減少や高齢化等により日常生活に必要な食料品及び生鮮品並びに日用雑貨等の買い物が困難な状況に置かれた市民を主な対象とした移動販売を行う事業者に対してその経費の一部を補助する買い物弱者対策事業を令和5年4月より実施している。しかし、大瀬戸町松島地区では約1年半前から移動販売が途絶え、本土においても今年9月から移動販売が途絶えている状況で、市民は再開を望んでいる。事業者が撤退した理由としては、移動販売車が故障し、新たな車両の確保ができなかったためとのことであった。

一方、岩国市の買い物弱者支援事業では、移動販売車の購入またはリースに係る経費なども補助対象としている。移動販売において車両は必要不可欠であり、本市においても、補助対象経費を拡充し、移動販売の再開を支援すべきと考えるが、市長の見解を伺う。

- (2) 本市は「しまの生活物資輸送費支援事業」を通じて、有人離島内での生活雑貨や食料品等の販売を目的とした物資輸送費などの経費を補助しているが、人口減少や島外への購買力流出により、島内の店舗の経営は厳しい状況にあると聞き及んでいる。そこで、島に根ざした店舗の存続を支援するための対策について伺う。

質問事項 3

75 歳以上の高齢者に対する交通費助成対象拡充について

質問の要旨

本市における 75 歳以上の高齢者に対する交通費助成は、現在、西彼町の上岳行政区川山分区、西海町の白岳行政区、大瀬戸町の幸物行政区、藤原行政区、奥浦行政区、上の瀬行政区及び河通行政区に居住する方に限定されている。これまで、平成 29 年第 3 回定例市議会及び令和 3 年第 2 回定例市議会において、対象地区や対象者の拡大について一般質問を行ったが、交通政策の中で検討したい旨やスマイルワゴンの活用を検討するとの答弁であった。ドア・ツー・ドアで運行されるスマイルワゴンは好評であるが、課題もあると聞いている。

一方、県内の他の自治体では、コミュニティバスと併用して高齢者の交通費助成を実施しているところもあることから、本市でもスマイルワゴンと併用して交通費助成の対象地区を拡大すべきと考えるが、市長の見解を伺う。

質問事項 4

国境離島航路運賃助成について

質問の要旨

国境離島島民割引カードに加えて、島外の方でも一定の基準を満たす「準島民」の方が航路運賃の割引を受けられる制度がある。本市では、令和 4 年 11 月から、要介護認定等を受けた島民を介護するために、年 6 回以上反復継続的に来訪する親族等もこの割引の対象となった。

本年 7 月に県内の日本共産党地方議員団で国土交通省に対し、反復継続回数の要件緩和を要望したところ、回数要件を削除しており、各自治体で基準を定めてよいとの回答を得た。本市として、今後どのように対応する予定か伺う。

質問事項 5

米海軍 L C A C の 20 時を大幅に越えての夜間航行について

質問の要旨

令和 5 年 3 月に防衛省から示された「九州防衛局職員による L C A C 夜間訓練監視業務について」の文書によれば、20 時を大幅に超える夜間航行が行われた場合には、米側へ申し入れ等の是正措置を講じるとされている。令和 6 年 6 月 26 日に午後 10 時前に帰港する夜間航行訓練が実施されたことに対し、九州防衛局及び防

衛省がどのような申し入れ等の是正措置を行ったのか、また、そのことについて、市に対してどのような説明がなされ、どのような協議が行われたのか伺う。

さらに、訓練拡大の兆候が見られないとして休止していた九州防衛局職員による L C A C 夜間訓練監視業務は再開されているのか伺う。

質問事項 6

老朽危険空き家除却支援事業の拡充について

質問の要旨

令和 6 年第 3 回定例市議会において市独自の支援について進捗状況を伺ったが明確な答弁は得られなかった。老朽危険空き家等の除却を進めるためには、離島部だけでなく本土部においても、進入路がないなどの理由で多額の経費が必要となる事例があるならば、除却補助の上限額を引き上げる必要があると考えるが、この件に関して、老朽危険空き家除却支援事業の拡充についてどのように研究が行われたか再度伺う。

3. 平井 満洋 議員

質問事項 1

西海市におけるインフラ整備について

質問の要旨

西海市公共施設等総合管理計画では、道路、橋梁、上水道施設及び下水道施設といったインフラ施設の維持管理・更新等に関する中長期的な費用を、2021 年から 2060 年までの 40 年間で総額 1,454 億円、年間平均 36.4 億円と見込んでいる。しかし、人口減少に伴う普通交付税の減少や、物価高騰による物件費の上昇など、今後の財政運営は非常に厳しい状況が予想される。このような状況下においても、市民の生活基盤であるインフラ施設の維持管理や修繕・更新は不可欠である。そこで、今後の財政運営の見通しとして、インフラ施設の維持管理・更新等に対して計画通りに財源は充当できるのか伺う。

質問事項 2

市営住宅について

質問の要旨

西海市営住宅管理条例に基づく住宅入居の手続について以下の点を伺う。

- (1) 市長が別に定める資格を有する連帯保証人として、県内在住者2名とし、そのうち1名は市内在住者とする要件があるが、連帯保証人を県外在住者に拡大する考えはないか伺う。
- (2) 家賃債務保証業者の仕組みについて伺う。
- (3) 条例第11条第3項にある「特別の事情」とはどのような事情を指すのか伺う。
- (4) 市営住宅の2階以上に入居している65歳以上の高齢者の人数を階数別に伺う。
- (5) 市営住宅等の入居募集について、募集期間を設けているが、募集期間を設けている理由を伺う。
- (6) 市営住宅周辺の草刈りなどの環境整備は入居者が行うのか伺う。

質問事項3

長崎オランダ村について

質問の要旨

令和6年第1回定例市議会及び第2回定例市議会における一般質問においても尋ねたが、長崎オランダ村株式会社を原告とする当事者訴訟等請求事件と、本市を原告とする建物明渡し等請求事件が併合して審理されている長崎オランダ村株式会社との訴訟について、その後の審理の状況について伺う。

4. 打田 清 議員

質問事項1

洋上風力発電による地域振興について

質問の要旨

江島沖洋上風力発電事業は現在調査事項が進められており、本事業における国の指定を受けたみらいえのしま合同会社の事業計画によれば、2025年1月には陸上送変電工事が始まろうとしている。その後、基地港指定利用開始、海底ケーブル敷設工事、基礎据付工事、風車据付工事等が約4年半行われ、2029年8月から運転開始となる。商工会主催の説明会において、同会社から地元商工会に対して、建設時には地元企業に参入して頂きたい旨の説明が行われ、地域への経済効果が期待される。建設時には、相当数の人員の流入が予想され、生活を行うための日用品と同時に、建設工事に必要な建設資材等も必要になってくると考えられる。そこで次のことについて伺う。

- (1) 西海市商工会会員には説明会で地元企業に参入して頂きたい旨の協力依頼がされているが、周知がされていない個人事業主、商工会に未加入の商工業者に対して協力の必要性について周知することが重要であると考えますが市長の考えを

伺う。

- (2) 事業の実施により、建設事業者や関係者が大島や崎戸の飲食店、宿泊施設、小売事業者などを利用する機会が増加することが予想される。この機会を地域活性化に繋げるために、本市において当該事業者に対し手立てする必要があると思うが市長の考えを伺う。
- (3) 洋上風力発電関連施設が建設される江島において、建設に携わる多くの従事者が訪れることで島の人口密度が急激に変化し、島のコミュニティが一時的に大きくなり、見慣れない人々が増えることで島民は不安を感じる事が想定されることから、不安解消を図るため地域のイベントや活動に参加するよう促し、住民との交流を深める機会を設ける考えはないか伺う。
- (4) 洋上風力発電施設は、再生可能エネルギーの推進に寄与するだけでなく、地域の観光資源としても活用できると思うが市長の考えを伺う。

質問事項 2

本市が本庁舎や各施設に設置している太陽光発電設備について

質問の要旨

本市が掲げる施策であるゼロカーボンシティの実現に向けて、自家消費型太陽光発電設備の整備は1丁目1番地のようなものであり、地球温暖化対策の中での最たるものの1つと捉えられる。本市の18か所の施設において発電容量が9.90 kWのものから最大80.1 kWの設備が設置されている。そこで、次の事について伺う。

- (1) 本市の施設の18箇所に太陽光発電設備が設置されているが、当該各施設において発電した電力は、自家消費されているのか、または売電されているのか伺う。
- (2) 設備の管理については西海クリエイティブカンパニーや指定管理者によるものと、市が直接管理するものがあるが、各施設の設備の通常の管理はどのようにされているのか伺う。
- (3) 万が一、故障や自然災害による被害が起こった際には、市が直接管理している設備は、どのような対応を行うのか伺う。
- (4) 太陽光発電設備で発電された電気のうち、自家消費できなかった余剰電力は電力会社に売電していると思うが、太陽光発電設備と蓄電池を組み合わせることで日中に太陽光発電設備で発電した電気を蓄電池に蓄えることができるようになる、蓄えた電気を夜間でも使えるようになることから、太陽光発電設備で発電された再生可能エネルギーをより多く自家消費できるようになり、ゼロカーボンシティの実現により近づくことができると考える。また、電気の蓄え

があれば非常時にも役立てることができるというメリットもある。そこで蓄電池が設置されていない太陽光発電設備に蓄電池を追加する計画があるのか伺う。

- (5) 太陽光発電設備の設置状況を見てみると、西彼・崎戸の各総合支所、また各小学校や大瀬戸町以外の保健センターなど未設置の施設がある。設置の必要性は大いにあると思うが、当該設備設置の考えと今後の予定はあるのか伺う。

質問事項 3

指定避難所となっている社会体育施設への空調設備の設置について

質問の要旨

過去の市議会定例会における一般質問において、熱中症への対策など社会体育施設への空調設備の設置について質問を行ってきた。

しかしながら、本市社会体育施設の照明設備の更新や長寿命化のための工事など、基本的な機能を維持するための改修案件を控えており、また予算の都合上設置は難しい旨の答弁であった。

夏場の気温の上昇は、今後も続くと予想される。また、梅雨や台風など避難所を開設する機会の多くは夏場であることから、早い段階から順番を決めて計画的に空調設備を設置する必要があると考えるが、市長の考えを伺う。

5. 西川 勝則 議員

質問事項 1

西海市における水道水とPFASの状況について

質問の要旨

有機フッ素化合物、PFASの中でもPFOS及びPFOAは、幅広い用途で使用されてきたが、人の健康保護の観点から、国際的に多くの科学的議論が行われ、規制対象物質とされている。日本においては、内閣府の食品安全委員会が令和6年6月にPFASの健康影響に関する評価書を取りまとめ、環境省はこの評価書を踏まえ、7月の専門家会議の会合で水道水の暫定目標値の見直しに向けた議論を始めた。現在のところ水質基準等の体系の中で水質管理目標設定項目に位置付けられているが、水質基準項目への格上げについては、検査体制の構築なども含めて総合的に議論していくとしている。そこで、次のことについて伺う。

- (1) 国は水道事業者等に対し、9月末までに水道におけるPFOS及びPFOAに関する水質検査結果を報告するよう求めているが、本市におけるこの検査の実施

状況及び検査結果について伺う。

(2) 今回の検査結果を踏まえ、今後どのように対応していく考えか伺う。

質問事項 2

一般廃棄物処理に関する循環型社会の実現に向けた今後の取組について

質問の要旨

第2次西海市総合計画後期基本計画において、循環型社会の実現を目指すまちづくりの施策としてごみの減量化と適正処理を掲げている。

令和6年3月に環境省が発表した令和4年度における一般廃棄物の排出及び処理状況等に関する調査によれば、本市のリサイクル率は31.7%で、県下で最も高く、全国平均の19.6%を上回っているが、全国には50%を越える自治体も存在する。本市では、可燃ごみや下水道汚泥等を炭化処理し、炭化燃料を製造するなど再資源化に取り組んでいるが、リサイクル率の増加は頭打ち傾向にあり、ここ数年は横ばいで推移している。

リサイクル率の向上は、市長が目指すゼロカーボンシティの実現に向けた重要な要素であると考えことから、リサイクル率の向上に寄与する新たな施策として、新たに廃食油を回収し、持続可能な航空燃料、SAFへの再生を検討する考えはないか伺う。

6. 片山 智弘 議員

質問事項 1

FRP漁船の廃船処理に係る補助について

質問の要旨

近年、日本全体で漁業や養殖業の生産量及び水産物の消費量が減少傾向で推移している。それに伴い、本市の漁業就業者も年々減少の一途をたどっている。また、漁業就業者の高齢化や廃業が進む中で、今後、繊維強化プラスチック製の漁船、通称「FRP漁船」の廃船が増加すると予想される。これらのFRP漁船の適正な廃船処理は、漁船等の不法投棄を防ぐなど、海や川の環境を守るために重要であるが、その廃船処理に係る漁業者等の高額な費用負担が深刻な問題になると考える。

そこで、漁港及び港湾施設周辺における船舶の安全航行や景観を守るため、FRP漁船の廃船処理に要する経費の一部を補助する考えはないのか伺う。

質問事項 2

さいかいほっと券の事業実績及びデジタル商品券への移行について

質問の要旨

- (1) 物価高騰等の影響により売上の低迷を強いられている市内中小事業者をこれまで以上に支援するため、市内の消費需要を喚起し、地域経済の活性化に寄与することを目的として、令和 6 年 6 月から 8 月末まで販売された「2024 さいかいほっと券プレミアム 30」について、販売及び利用実績について伺う。また、本事業に加盟する市内事業者及び利用者からどのような声が届いているのか伺う。
- (2) 今後、地域経済の活性化に寄与するプレミアム付商品券を発行する場合、市内加盟事業者の当該商品券の管理や集計作業の負担を軽減し、また、利用者の利便性の向上を図るとともに、デジタル化について市民の意識を醸成させるため、現在の紙の商品券からアプリなどを活用したデジタル商品券に移行する考えはないのか伺う。

質問事項 3

電磁的記録式投票の導入について

質問の要旨

本市における D X 推進の取組の一環として、市議会議員及び市長選挙への電磁的記録式投票の導入は、専用投票機の操作により選挙人の正確な意思を適切に反映させるだけでなく、開票作業の効率化と迅速化を図り、選挙に従事する職員の負担軽減等に寄与すると考える。

よって、電磁的記録式投票の導入について研究・検討していく考えはないのか伺う。

質問事項 4

台風 10 号接近に伴う避難所開設の対応について

質問の要旨

本年 8 月末に発生した台風 10 号接近に伴い、本市では 8 月 29 日 8 時 30 分に「高齢者等避難」の発令と同時に避難所が開設された。しかしながら、避難所開設時には、すでにバスが運休している地域があり、市民からは「避難所までの移動が困難であった」との声が上がった。近隣の市では、前日 28 日の夕方には高齢者等避難の発令及び避難所開設がなされている。

そこで、本市における高齢者等避難の発令及び避難所開設のタイミングは適切で

あったのか市長の考えを伺う。

7. 田川 正毅 議員

質問事項 1

脱炭素ゼロカーボンシティ推進について

質問の要旨

- (1) 市長は第2次西海市総合計画において、「ゼロカーボンシティへの挑戦」、「緑の産業づくり」を掲げており、国の方針に沿って、2050年までに二酸化炭素排出量を削減し、再生可能エネルギーを活用して温室効果ガスをゼロにすることを目指している。この一環として、本市では「江島沖洋上風力発電事業」や松島火力発電所による高効率発電事業「GENESIS松島計画」が進行中である。

これらの計画の進捗状況と今後の地域経済への影響について伺う。

- (2) これらの事業は地元企業にとって、大きなビジネスチャンスと考えられるが、西海市商工会や地元企業に対して、建設工事等への参入に導くための説明や働きかけをどのように行っているのか、また行う予定なのか伺う。

- (3) みらいえのしま合同会社は洋上風力発電事業を通じて直接的な経済価値の創出だけでなく、地域課題の解決にも貢献し、中長期的な社会的価値を生み出すことをビジョンとしている。

そして、地域共生策として漁業振興、江島振興、地域振興の3本柱で日本における先進的な離島振興モデルを確立するとしている。市長はこれらの3つの振興策をどのように捉えているのか伺う。

質問事項 2

急激に進む少子化対策と、その中での教育の在り方について

質問の要旨

- (1) 厚生労働省の人口動態統計によると2024年上半期の全国の出生数は、32万9,998人であり、前年同期比で6.3%減少している。このままの傾向が続けば年間の出生数が70万人を下回る可能性が高まっており、長崎県においても、上半期の出生数は3,383人で昨年の出生数7,656人の半数以下にとどまっている。本市の出生数は令和5年が119人で令和4年の125人と比較して4.8%減少している。

政府は「次元の異なる少子化対策」として児童手当や育児休業給付の拡充を進めているが、本市の施策について伺う。

(2) 第2期西海市教育振興基本計画の中で学校・家庭・地域の連携・協力による『共育』の重要性を謳っているが、少子高齢化や情報化社会、核家族化の進展により地域の連携が希薄化していると認識している。

このような状況で「地域の子供は地域で育てる」という施策をどのように具体的に進めるのか。また、少子化が進む中での教育の在り方について伺う。

質問事項3

大瀬戸ふれあいプールの温水化について

質問の要旨

大瀬戸ふれあいプールの温水化については、これまでも幾度となく提言してきた。令和2年第2回定例市議会では「健康増進のために必要性は感じるが、財源や市全体のスポーツ施設の配置の問題等と併せて研究・検討したい」、さらに、令和5年第2回定例市議会では「社会体育施設の設備更新や改修に多大な費用がかかり、維持管理費も多額になり、温水プールの必要性は認識するが、建設は困難である」との答弁だった。

このことについて、大瀬戸ふれあいプールの温水化に係る費用のほか既存の社会体育施設の設備更新や改修また維持管理にかかる費用について補助金の調査、検討を行ったのか。また、検討した結果、活用可能な財源が見込めた場合、温水化する考えはあるのか伺う。

8. 平野 直幸 議員

質問事項1

循環型社会を目指す一般廃棄物処理基本計画と関連施設の集約化について

質問の要旨

循環型社会においては、廃棄物を抑制すること、すでに排出した廃棄物はリサイクルするなど適正に再利用すること、そしてどうしても利用できないものは適正に処分することが必要である。

そこで、本市の今後の一般廃棄物処理基本計画においては、ごみの有用性に着目し、循環資源として、再利用・再生利用・熱回収等の適正な循環的利用の推進を盛り込むことが求められる。

そして最終処分場での埋め立て処分を行う焼却灰や残渣物等の量を削減し、中間処理施設と最終処分施設を集約することができれば、運搬に要する経費と排出ガスの低減が図られ、ゼロカーボンシティ宣言を掲げる本市の政策に合致する。

そのうえで、中間処理施設と最終処分施設は次世代に引き継がれるものであり、整備候補地は環境への負荷を低減する社会づくりをめざすという考えから逆行してはならないと考える。

以上の考え方を踏まえ、以下の点を伺う。

- (1) 西海市炭化センターの運営契約期間満了後の可燃ごみの中間処理施設におけるごみ処理方式についてどのように考えているのか伺う。
- (2) 現在の最終処分場計画において、埋立残余容量が無くなり新たな処分先を確保することになった場合には、現行の一般廃棄物処理基本計画における最終処分場計画の見直しが必要であると考えているが、見解を伺う。
- (3) 新たに整備する最終処分場のタイプとして、クローズド型を採用した場合とオープン型を採用した場合の整備費用の差額はどの程度か伺う。
- (4) 管理運営経費の削減を目指し、可燃ごみの中間処理施設と最終処分場をより近接した場所に集約することが最適な判断であると考えているが、見解を伺う。
- (5) 脱炭素社会の構築に向けて二酸化炭素の排出を抑制する施設の整備を行うべきと思うが、見解を伺う。

質問事項 2

生涯スポーツの推進と体制づくりについて

質問の要旨

近年、本市の高校スポーツ界において、生徒や指導者の皆様の努力と市民各層の関心及び支援が相乗効果を生み、高校女子バレーボール、高校男子野球及び高校女子ウエイトリフティングの活躍が目覚ましいものとなっている。

今後も、本市の高校スポーツ界の発展を支援するために、さらなる施策の推進を提案していきたいと考えている。

一方で、西海市七釜鍾乳洞ロードレース大会は、本市における社会体育の行事として定着しているが、令和6年度の大会は開催場所の確保が困難であることなどの理由で中止されることが発表された。このロードレース大会は、だれでも参加できる、歴史を重ねたまちおこしを期待される大会であり、毎年恒例行事として市民に親しまれてきた生涯スポーツである。その中止は非常に残念な事案と捉えている。

いつでも、どこでも、誰でも気軽にスポーツに参加できる生涯スポーツは地域づくりにとって重要であると認識しており、今後も振興を図る必要があると考える。

そこで、以下の点について伺う。

- (1) 令和7年度に改めて第20回大会として開催する予定とのことだが、確実に開

催できるのか伺う。

(2) 生涯スポーツの振興をどのように進める考えか伺う。

(3) 生涯スポーツ振興の推進体制充実のため、専門部署の設置について検討できないか伺う。